

べと病 Downy mildew (*Peronospora destructor*)



苗畑での発病



初期病徴



えそ性の病斑



本畑における多発症状

### 【見分け方】

葉が黄白色のぼやけた退色病斑を生じ、病徴が進むと葉全体が黄変して葉枯れを起こす。排水不良畑の多湿条件下では灰白色の薄いかびを生ずる。発病後期には二次的に黒色のかびを生じ、典型的なべと病斑が判りにくくなることもある。

### 【発生生態】

病原菌は土壌中の被害残渣に卵孢子や菌糸の形で越冬生存し、これより分生子を生じて空気伝染する。気温が15～20 で降雨が続くと発病が多くなる。特に6月～7月の梅雨期と、10月～11月の降雨が多くなる時期に被害が目立つようになる。罹病株上に形成される分生子により二次伝染し、一旦発病すると被害の拡がりは早いので早期の防除を心がける。秋期はさび病と同時防除する。主に水田転作畑や排水不良畑で発生しやすい。

